



継続支援で被災地を元気に

海女フェスに寄付

アサヒグループホールディングス株式会社(泉谷直木社長)は12月25日、東日本大震災の被災地支援として100万円を市に寄付。アサヒビール株式会社の梅垣幸嗣岩手支社長は「継続的な支援で元気になってほしい」と期待を寄せました。同社の寄付は、昨年に続き「北限の海女フェスティバル」の開催に役立てられます。

義援金、寄付金

寄せられた義援金
1,184 件
8,998 万 7,012 円

(1月10日現在)

全国各地から義援金、寄付金が寄せられました。ご支援ありがとうございます。

12月11日～1月10日受付分
(敬称略)

義援金

■県外■

【神奈川県】▶神林洋行
【愛媛県】▶村上欣治
【福岡県】▶(株)ニック

■市内■

【団体】▶久慈東高校生徒会▶ふれあい福祉まつり実行委員会

■口座振替■

▶カ)サギヨウフクリュウツウ▶イイダヒデアキ▶イシイタケヒコ▶クジタマコ▶タカハシジュンイチケイ

■その他■

▶匿名1件

寄付金

■県外■

【青森県】▶増山繁雄
【宮城県】▶丹野綾子
【埼玉県】▶城野口有吉▶松原幸大▶山内英世

【東京都】▶海保裕

【愛媛県】▶花井和司

■市内■

【団体】▶小袖北限の海女の会

■その他■

▶匿名3件

NEWS

市内8法人と福祉避難所の協定締結

災害時に備え体制築く



協定を締結した各法人の代表者と山内市長

市と市内で計10カ所の社会福祉施設を運営する社会福祉法人8団体は12月24日、大規模な災害時に高齢者や障害者などの特別な配慮が必要な要援護者を受け入れる福祉避難所の設置・運営に関する協定を結びました。

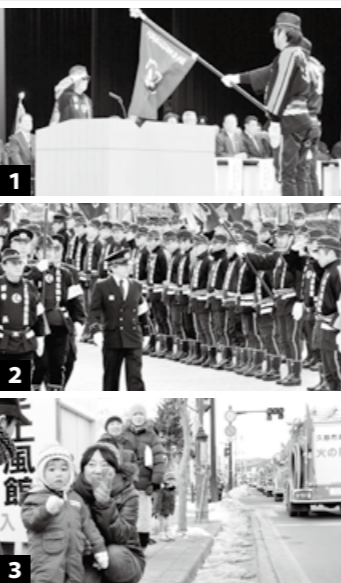
市役所で行われた調印式には各法人から計16人が出席。法人側を代表して山形福祉会長の戸崎武文理事長と山内隆文市長が協定書に署名、押印しました。調印を終え、山内市長は「専門分野に精通した皆さんの協力によって、災害時の体制が構築できます」と期待を込めてあいさつ。戸崎理事長は「私たち事業者の理念は社会福祉事業を通じて地域に貢献すること。協定の締結を機に、しっかりと災害への備えをしていきます」と抱負を述べました。

市で初となる同協定の主な内容は①1次避難所に避難した要援護者にケアが必要な場合、施設を2次避難所として開設・運営②食料や介護用品の備蓄③施設職員への研修、訓練の実施―など。市では今後も計画的に同協定の締結を進めていきます。

SPECIAL TOPICS

久慈市消防団が出初式

1/無火災を達成した分団や、消防功労者を表彰 2/整列し点検を受ける市消防団員 3/沿道で見守る市民



寒風の中、堂々とした分列行進を見せる市消防団員

出初に願う無災害

1月5日、消防関係者の防災意識の高揚を図る久慈市消防出初式がアンバーホールで開催。消防団員たちは市民の安心・安全な生活へ決意を新たにしました。

団結して活動を

式典には消防団員と婦人消防協力隊員、消防職員ら計677人が一堂に会しました。功労者や優良分団などの表彰に続いて、市消防団の門ノ澤正浪団長が「市民の生命、財産を守るため、日ごろから訓練を積み、一致団結して消防活動に取り組んで下さい」と訓示。統監の山内隆文市長は「市民の安心・安全な生活のため、自らが何をしていかなければならないかを考えながら、活動に励んでください」と激励しました。

引き締め、山内市長から服装の点検を受けました。その後は市街地で分列行進先導するラッパ・鼓隊の演奏に合わせ、堂々と行進する団員たちの姿を沿道の市民たちは温かく見守っていました。これまで、大雨や災害などのため、消防団員たちは市民のため命懸けで活動を続けてきました。市民が安心して暮らせる、災害がない一年を祈り、消防関係者は今年の活動を始めました。

気持ち引き締め

久慈正俊消防長への敬礼に続き、参加者はアンバーホールの駐車場へ移動。規律正しく整列した団員たちは表情を

消防団員を募集中

消防団の活動に興味がある人は、消防防災課(☎52-2173)、またはお近くの消防団員にご相談ください。

▶消防団員の資格…次の全てに該当

- ①市内に在住または在職
- ②18歳以上の健康な男女



山内隆文連合長(中央)の点検を受ける消防職員

消防職員特別点検 信頼へ精進を誓う

1月7日、久慈広域連合は市防災センターで消防職員特別点検を実施。消防職員約100人が連合長の山内隆文市長らから服装などの点検を受け、気持ちを新たにしました。

点検後、山内市長は「地域住民の意識啓発を図りながら火災予防活動の推進に努めるとともに住民の信頼に応えるため、さらなる精進を期待します」と訓示。職員は表情を引き締め、火災や災害などへ万全の態勢で臨むことを強く誓っていました。

NEWS

久喜地区防災センター竣工式

地域の防災拠点が完成



久喜地区防災センター

■所在地…久慈市宇部町 20-149-1

■構造…木造平屋建て

■延床面積…198.74㎡

■工期…平成25年5月15日～12月2日

■総事業費…約6,300万円

■その他…発電機を使用して、室内の非常用照明と一部のコンセントに電源の供給が可能。また、マンホールトイレに対応する災害時用便槽を設置しています。

久喜保育園の隣接地に市が整備を進めていた久喜地区防災センターの工事が昨年12月2日に完了。同月21日に竣工記念式と内覧会が行われ、関係者や地域住民など約30人が施設の完成を喜びました。

式では山内隆文市長が「隣接する保育園や屯所、避難道路などが一体となり、地区の防災強化が図られました。今後も防災意識の向上に努めてください」とあいさつ。テ

プカットに続いて、参加者は施設内へ移動し、広さ約93平方メートルの明るく開放的な多目的ホールや、車いすに対応した多目的トイレ、広い厨房などの設備を確認していました。

久喜地区会の廣崎國雄会長は「住民が完成を待ち望んでいた施設です。災害時の避難場所のほか、地域の活動拠点として有効に活用していきたいです」と喜びの表情で話してくれました。